

志・人財・グローバル



大志を育む追手門学院

学校法人 追手門学院 学院長
 竜田 邦明 (小67・中高7期)

最近、教育の柱として「一貫教育・志の教育・自校教育」を提案しました。

「一貫教育」の実現に向けた第一歩として、両高等学校において、追手門学院大学(追大)への進学を目指す追手門コースが展開されており、彼らは、いずれ追大のみならず社会においても、中核になってくれると期待しております。

私立学校には創設者と建学の精神が明確に存在するので、志を立てる「志立学校」でもあります。在校生が、人生において何を目的にするのか、何を目標とするのか、学院は、その「志の教育」を担う使命があります。

「志」は、「Boys, be ambitious !」(青年よ、大志を抱け)とクラーク博士が札幌農学校(現北海道大学)の第一期生に発したといわれる有名な言葉に通じます。二期生で、この教えに触発された新渡戸稲造氏は、「我、太平洋の架け橋とならん」とアメリカに留学し、日米のみならず国際的に活躍されました。

学院の「志の教育」を受けて、第2、第3の新渡戸稲造氏が生まれることを願っております。その一つの施策として、経営戦略室の発案で、

学内外を問わず、世界で活躍したいという強い意志をもった高校1.2年生を対象に、本年10月1日から毎週土曜日、合計11日をかけて、「グローバル人財育成塾」を開講し、好評を博しました。

一貫教育と志の教育を支えるのが、「自校教育」であります。今年度、「追手門の歩み」を出版し、既に教科書として使用していますが、自分の学校を知り、誇りを持つことは、教育理念の理解と実践につながります。

そこで、「高島鞆之助賞」の制定とともに、追手門学院に3代にわたって入学された家族に、感謝の気持ちを表すことにし、約10組のご家族に感謝状を贈呈しました。

追手門学院は、創立125周年を目前にしており、日本でも有数の同窓会である山桜会の役割は、学院の発展のためにますます重要になってきております。



学院長小学校入学のお写真



追手門の将来像

アライアンス・フォーラム財団 代表理事
 (合衆国公益法人、国連承認非政府機関)

原 丈人 (小76期)

今世紀大きな変化が起きる。2050年迄に地球人口の85%は、アジア、アフリカ、中南米など途上国に住む様になる。一方、米国、欧州、日本、ロシアの先進国は、全部足しても15%以下なのだ。人口が減り、国内市場だけに頼れない中で日本の企業、学校の組織は、途上国との関わりをどのように作っていくかが最重要課題となる。著名な大企業でも、途上国に作った子会社が、売上高や利益で本社を凌ぐのは時間の問題だ。こんな時代に「世界に羽ばたく為に必要な素養」とは何であろうか?これは「異文化を受け入れる事の出来る能力」である。ここ数年世界中で頻りに使われている「多様性」の意味を解り易く記してみよう。

国連加盟国193ヶ国中、先進国は約30ヶ国で大半は途上国なのだ。言語、文化習慣が異なる150ヶ国以上の途上国には その何倍の民族 何十倍の部族がいる。多様性が特殊ではなく当たり前の時代がもうすぐ来るのだ。彼等が地球規模で交流する為には「違いを認め、相手の考えを聞き理解しようと努める事。自分の考えを論理的に



述べ相手に理解して貰う能力」が最も重要な素養となる。この目的貫徹の為には、中途半端に外国語を学ぶより日本語で物事を考え表現する能力を鍛える事が最

重要だ。小学校では一般教養が理解できる為の読み書き、算数を行動的に教える。何れの学年でも「同一でない人の考えを聞き理解しようと努める事」の大切さを、骨の随迄染込む様 言葉、気持ち 行動で感じさせるのだ。中学以降 歴史、地理、文学、科学の一般教養を其々の子供の好奇心を目覚めさせる形で学ばせるのだ。高校・大学では実際に途上国で現地の人と共に活動し、地球の貧困問題を解決する実地経験をアジア、アフリカ、中南米で身につけるのがいい。その暁には、我が母校の卒業生が政府、国際機関、グローバルに発展する会社で活躍する事は間違いない。

(財務省参予、首相諮問機関委員、国連機関大使、ザンビア共和国大統領特別顧問を歴任)